

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
設置者	コリツダ`イ`クホジ`ンヤマシケンリツダ`イ`ク 公立大学法人山梨県立大学								
大学の名称	ヤマシケンリツダ`イ`クダ`イ`クイン 山梨県立大学大学院 (The Graduate School of Yamanashi Prefectural University)								
大学本部の位置	山梨県甲府市飯田5丁目11-1								
大学の目的	「グローバルな知の拠点となる大学」、「未来の実践的な担い手を育てる大学」、「地域に開かれ地域と向き合う大学」たることを希求し、人間と社会に対する学術的研究、豊かな人間性及び専門的な職業能力を備えた人材の育成並びに地域社会に対する実践的な貢献を通じて、豊かで活力ある社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を極めて文化の発展に寄与するとともに、高度専門職業人、看護学教育者及び看護学研究者等の人材を育成をもって、人々の健康と福祉の向上に寄与する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 看護学部看護学科 看護学研究科看護学専攻（修士課程） 14条特例の実施
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻 博士後期課程 (Doctoral Program in Nursing) 計	年	人	年次人	人	博士（看護学） (Doctor of Nursing Science)	年月 第年次 令和3年4月 第1年次	山梨県甲府市池田1丁目6-1	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	令和3年4月の看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）の設置にあわせ、修士課程を博士前期課程と改称する。								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	16単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	教授 14人 (14)	准教授 6人 (6)	講師 -人 (-)	助教 -人 (-)	計 20人 (20)	助手 -人 (-)	兼任 4人 (4)
		計	14 (14)	6 (6)	- (-)	- (-)	20 (20)	- (-)	- (-)
	既設	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	11 (11)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	21 (21)	- (-)	28 (28)
		計	11 (11)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	21 (21)	- (-)	- (-)
合計		16 (16)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	27 (27)	- (-)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任		計			
	事務職員		20人 (20)	21人 (21)		41人 (41)			
	技術職員		1 (1)	1 (1)		2 (2)			
	図書館専門職員		2 (2)	5 (5)		7 (7)			
	その他の職員		- (-)	- (-)		- (-)			
計		23 (23)	27 (27)		50 (50)				
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	35,113㎡	-㎡		-㎡		35,113㎡		
	運動場用地	17,875㎡	-㎡		-㎡		17,875㎡		
	小計	52,988㎡	-㎡		-㎡		52,988㎡		
	その他	-㎡	-㎡		-㎡		-㎡		
合計	52,988㎡	-㎡		-㎡		52,988㎡			

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		31,722㎡ (31,722㎡)	- ㎡ (- ㎡)	- ㎡ (- ㎡)	31,722㎡ (31,722㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	29室	16室	33室	2室 (補助職員 -人)	2室 (補助職員 -人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		18 室				
		看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程								
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定 不能なため、大学 全体の数		
	看護学研究科看護学 専攻（博士後期課程）	239,193 [17,548] (228,889 [17,254])	2,336 [263] (2,254 [260])	172 [172] (160 [160])	6,896 (6,449)	3,950 (3,917)	150 (148)			
	計	239,193 [17,548] (228,889 [17,254])	2,336 [263] (2,254 [260])	172 [172] (160 [160])	6,896 (6,449)	3,950 (3,917)	150 (148)			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		2,290 ㎡		278	300,000					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,446㎡		テニスコート2面						
経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能なため学部との合計 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。看護図書館のみ。
		教員1人当り研究費等		590千円	590千円	590千円	-	-	-	
		共同研究費等		200千円	200千円	200千円	-	-	-	
		図書購入費	12,225千円	12,225千円	12,225千円	12,225千円	-	-	-	
		設備購入費	1,175千円	150千円	150千円	150千円	-	-	-	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	第1年次の①は県内者、②は県外者		
	① 817千円 ②1,005千円	535千円	535千円	- 千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金、財産貸付料収入、雑収入 等							
既設大学等の 状況	大 学 の 名 称	山梨県立大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	国際政策学部	-	80	10	340	-	1.13	-	山梨県甲府市飯田5丁目 11-1	
	総合政策学科	4	40	3年次 5	170	学士（国際政策学）	1.12	H17年度		
	国際コミュニケーション学科	4	40	3年次 5	170	学士（国際政策学）	1.14	H17年度		
	人間福祉学部	-	80	10	340	-	1.09	-		
	福祉コミュニティ学科	4	50	3年次 5	210	学士（人間福祉学）	1.11	H17年度		
	人間形成学科	4	30	3年次 5	130	学士（人間福祉学）	1.08	H17年度		
	看護学部	-	100	-	400	-	1.01	-	山梨県甲府市池田1丁目 6-1	
看護学科	4	100	-	400	学士（看護学）	1.01	H17年度			
看護学研究科	-	10	-	20	-	0.85	-			
看護学専攻（修士課程）	2	10	-	20	修士（看護学）	0.85	H17年度			
附属施設の概要	該当なし									

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究倫理特講	1前	2			○			1					兼1	共同（一部）
	看護学研究法特論Ⅰ（量的研究）	1前	2			○			1					兼1	オムニバス方式・共同（一部）
	看護学研究法特論Ⅱ（質的研究）	1後	2			○			2					兼1	オムニバス方式
	ケアリング特論	1・2前		2		○			2	1					オムニバス方式・共同（一部）
	看護政策組織特論	1・2後		2		○			3						オムニバス方式・共同（一部）
	小計（5科目）	—		6	4	0	—			7	1				
専門科目	広域実践看護学分野	臨床開発看護学特講	1・2通		2		○		6	2					オムニバス方式・共同（一部）
		地域包括ケア看護学特講	1・2通		2		○		4	3					オムニバス方式・共同（一部）
		母子育成看護学特講	1・2通		2		○		4	0				兼1	オムニバス方式・共同（一部）
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			14	5	0	0	0	
	演習科目	広域実践看護学特別演習	1・2通	2				○	14	3					共同
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			14	3					
研究科目	看護学特別研究	1～3通	6				○		13	1					共同
	小計（1科目）	—	6	0	0	—			13	1	0	0	0		
合計（10科目）		—	14	10	0	—			14	6	0	0	0		
学位又は称号		博士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
共通科目（必修）6単位、専門科目（選択）2単位、演習科目（必修）2単位、研究科目の看護学特別研究6単位の合計16単位を修得すること。なお、共通科目の選択科目（2科目配置・各2単位）を必要に応じて履修することができる。これに加え、必要な研究指導を計画的に受けたうえで、博士論文と査読のある学術雑誌に掲載又は掲載予定（掲載証明書を提出）の副論文1編以上を提出し、論文審査並びに最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授業科目の概要			
（看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究倫理特講	<p>研究倫理に関する歴史的背景や事例と「対象者の人格の尊重」「対象者や社会への有益性」「公正性の保持」の倫理原則をふまえた研究計画から研究データ収集、データ分析、論文作成、成果発表のあり方を学修する。さらに「個人情報保護法」や「人を対象とする医学系研究の倫理指針」、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」等の理解を通して、研究者としての責任、対象者への倫理的配慮と研究上での手続き、研究不正行為の防止、利益相反へ対応、オーサーシップ、共同研究におけるルールについての具体的内容を学修する。そのうえで、研究者としての明確な研究倫理観を持ち、研究遂行上の研究倫理が実践できるよう教授する。</p> <p>（共同（一部）/全15回） （22 山縣然太郎/12回）</p> <p>研究における倫理原則を理解し、関連するガイドライン等に基づいた研究者としての責任や研究での倫理的配慮や不正防止等を理解し、研究倫理に基づいた自己の研究プロセスを探究する。 （22 山縣然太郎・4 名取初美/3回）（共同） 研究倫理の歴史的背景と要因を学ぶ。</p>	共同（一部）
	看護学研究法特論Ⅰ （量的研究）	<p>看護の現場で起こっている複雑な現象を客観的に捉え分析する手法として、実証主義パラダイムを前提とした量的研究法を学修する。また量的データ分析の基礎である記述統計、推測統計を理解したうえで、重回帰分析、判別分析、多重ロジスティック分析、因子分析、共分散構造分析の理論と手法、データの信頼性と妥当性の検証について学修する。さらに分析ソフトを使用して実際にデータを解析することによって具体的な分析手法を習得し、自己の研究デザインやデータに適合した量的統計解析ができるよう教授する。</p> <p>（オムニバス方式・共同（一部）/全15回） （23 中本和典/9回）</p> <p>多変量解析の理論と手法、データの信頼性と妥当性の検証を理解する。</p>	オムニバス方式 ・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	看護学研究法特論 I (量的研究)	(4 名取初美/3 回) 記述統計、推測統計、2 変量分析を理解する。 (23 中本和典・4 名取初美/3 回) (共同) 分析ソフトによる解析方法の実際を学修する。また 研究方法を中心としたクリティークを通して、研究方 法の妥当性を探究する。	オムニバス方式 ・共同 (一部)
	看護学研究法特論 II (質的研究)	看護の複雑な現象(事象)を記述・説明し、事象の 本質追求や理論生成を導く分析手法として、哲学的 理論を基盤とする質的研究法を教授する。また量的 研究との比較による質的研究法の特徴と限界を捉え た上で、質的データを分析するためのグラウンデッ トセオリーアプローチ、現象学的アプローチ、内容 分析法、質的統合法(KJ法)の理論と手法、データの 真実性・信憑性の確保を学修し、代表的な文献のク リティークを行い、自己の研究デザインやデータに 適応した質的分析ができるように教授する。さら に、質的研究手法を遂行する上での研究者としての 態度・志向性について探究する。 (オムニバス方式/全 15 回) (② 遠藤みどり/9 回) 質的研究法の理論と方法、データ分析の真実性と 信憑性の確保、内容分析法の理論と手法、文献クリ ティークを通して理解する。 (24 水戸美津子/4 回) グラウンデットセオリーアプローチや現象学的ア プローチの理論と手法、文献クリティークを通して 理解する。 (13 佐藤悦子/2 回) 質的統合法(KJ法)の理論と手法、文献クリティーク を通して理解する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	ケアリング特論	<p>看護の中核概念であるケアリングについて、国内外の諸理論やエビデンスをもとに、ケアリング理論の背景と基底原理、先行要件、構成要素、成立要件を多角的に検討するとともに、ケアの理論構築と体系化について探究する。また看護実践が実践知として形成されるために不可欠な洞察と内省に依拠するリフレクションの在り方を検討し、看護実践事例の活用によるヒューマン・ケアリングの本質が探究できるように教授する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) /15回) (⑥ 木下幸代/5回)</p> <p>ケアリング理論の背景や概要、国内外の文献に基づく研究動向をふまえ、看護におけるケアリング理論について検討する。 (⑤ 米田昭子/6回)</p> <p>看護の基盤となるケアリングの意味を探究するとともに、看護のケアリングの基盤となる概念や方略について検討する。 (19 前澤美代子/2回)</p> <p>看護のケアリングの基盤となる概念や実践事例に基づくケアリング方略について検討する。 (⑥ 木下幸代・⑤ 米田昭子/1回)(共同)</p> <p>看護におけるケアリング理論を検討する。 (⑥ 木下幸代・⑤ 米田昭子・19 前澤美代子/1回)(共同)</p> <p>ケアリング理論活用による看護実践事例のケアリングと実践知の関連を検討する。</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
	看護政策組織特論	<p>我が国の社会情勢および保健・医療・福祉政策から看護政策の動向を踏まえ、看護政策の現状と課題、あり方について探究する。また、社会のニーズに対応した看護サービス提供システムの現状と課題から、看護サービス提供システムを変革・開発し、看護施策に反映させるための看護施策形成過程について教授する。さらに、組織マネジメントに関する理論・概念の理解を深め、チームが組織として有効に機能するための方略やそれに伴う課題について探究する。この過程を通して人々のQOL向上を目指した看護施策・看護サービス提供システムのあり方を探究できるよう教授する。</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	看護政策組織特論	<p>(オムニバス方式・共同(一部) /15回) (13 佐藤悦子/6回) 看護施策を保健・医療・福祉政策と関連付けて検討し患者・家族・住民の主体性を引き出すための組織アプローチについて理解し、チームを組織的に機能させるための課題と方略を探究する。</p> <p>(11 小田切陽一/2回) 保健・医療・福祉政策の現状を理解し、我が国の課題について検討する。</p> <p>(9 山田光子/4回) 看護組織論の視点から医療機関における看護サービス提供システムの現状と課題を明らかにし、医療機関における看護サービス提供チームの組織マネジメントについて探究する。</p> <p>(13 佐藤悦子・11 小田切陽一/3回) (共同) 看護提供システムを看護施策と関連づけ看護施策に反映させるための看護施策形成過程について検討し、看護実践発展への寄与について探究する。</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 実 践 看 護 学 分 野	<p>入院期間が短縮されている臨床療養の場において、急性期や慢性期の複雑な健康問題を持ち医療を必要とする患者を短期間に在宅療養の移行に繋ぐ新たな臨床看護の支援方法に関する理論や概念を学際的に探究・分析する。また、医療技術の進歩や保健医療福祉施策の変革等の動向を見据え、急性期や慢性期の患者が短期間の間に医療機関から在宅療養に移行できるための安全・安楽な療養支援、苦痛緩和や早期回復支援、自己管理支援における看護実践上の課題を取り上げ、その課題解決のための新たな看護支援方法に関連する文献クリティークを行う。さらに急性期ならびに慢性期にある患者・家族のQOLを高めることを志向した新たな臨床看護の看護実践方法の課題を明確にし、研究テーマを導くとともに、課題解決に向けた方法論の検討を行い、新たな臨床看護実践方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /全 15 回) (② 遠藤みどり/2 回) 臨床看護の課題、急性期患者・家族に関連する主要概念・理論・モデルを検討する。 (⑥ 木下幸代/1 回) 慢性期患者の自己管理支援の多角的探究 (② 遠藤みどり・⑦ 井川由貴/3 回) (共同) 急性期患者の全人的苦痛と緩和ケア、合併症予防・早期回復支援と多職種連携体制を探究する。 (⑥ 木下幸代・⑤ 米田昭子/2 回) (共同) 慢性期患者・家族に関連する主要概念・理論・モデルを検討する。 (⑤ 米田昭子・③ 西村明子/1 回) (共同) 慢性期患者の予防的支援と支援体制を探究する。 (⑧ 渡辺かづみ/1 回) 療養中の患者の病態変化を察知する臨床判断過程のエビデンスを探究する。 (② 遠藤みどり・⑥ 木下幸代/3 回) (共同) 新たな臨床看護実践の支援方法に関する研究知見の実践適用の方法論、研究課題の焦点化と意義の明確化、研究の実施可能性と研究方法を検討する。 (④ 平尾百合子/1 回) 療養支援における感染予防行動と感染管理体制を多角的に探究する。 (① 稲垣順子/1 回) 療養支援における EBP(Evidence-Based-Practice)を多角的に探究する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 実 践 看 護 学 分 野	<p>地域で生活するあらゆる健康レベルにある人々が、安心して安全に自分らしく生活するための予防的視点を含めた地域包括ケアシステム・制度について教授する。また、地域包括ケアシステムにおける地域在宅看護実践に必要な知識や概念・理論を教授する。さらに、社会の動向および地域特性を踏まえた多角的な視点から行う地域診断をもとに、地域包括ケアシステムの中で機能する地域在宅看護実践の現状と課題および課題解決のための方略を国内外の文献をクリティークし探究する。これらを通し人々のQOL向上に寄与できる地域包括ケア実践に向けた創造的な看護アプローチを探究できるように教授する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (13 佐藤悦子/2回)</p> <p>地域包括ケアの概念や地域包括ケアシステムの基礎となる理論・概念として組織論・チームアプローチ理論を教授する。 (14 村松照美/2回)</p> <p>地域在宅看護の基礎となる理論・概念として、プライマリーヘルスケア・ヘルスプロモーション・コミュニティアズパートナーモデル・PRECEDE・PROCEEDモデルについて教授する。 (11 小田切陽一/1回)</p> <p>保健・医療・福祉政策の現状と課題について教授する。 (16 泉宗美恵/1回)</p> <p>地域在宅看護の基礎となる理論・概念としてケアマネジメント理論について教授する。 (13 佐藤悦子・20 依田純子/1回)(共同)</p> <p>地域在宅看護の基礎となる理論・概念としてセルフケア理論・家族アセスメント理論について教授する。 (9 山田光子・13 佐藤悦子/1回)</p> <p>地域包括ケアシステムの中で機能する看護に関連した理論として看護組織論・看護管理論について教授する。 (17 小山尚美・9 山田光子/1回)(共同)</p> <p>地域で生活する人々(成人・高齢者・精神障がい者)のニーズに対応する地域包括ケアシステムの現状と課題について検討する。</p>	オムニバス方式 ・共同(一部)
	地域包括ケア看護学 特講		

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 実 践 看 護 学 分 野	<p style="text-align: center;">地域包括ケア看護学 特講</p> <p>(14 村松照美・11 小田切陽一/2回) (共同) 地域包括ケアシステムにおける地域看護提供課題及び課題解決のための方略について検討する。 (13 佐藤悦子・16 泉宗美恵/2回) (共同) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護提供課題及び課題解決のための方略について検討する。 (13 佐藤悦子・14 村松照美・11 小田切陽一/2回) (共同) 地域包括ケアシステムにおける地域在宅看護の役割と期待、創造的アプローチについて検討する。</p>	<p>オムニバス方式 ・共同 (一部)</p>
	母子育成看護学特講	<p>生涯を通した母子とその家族の成長・発達を含めた健康への支援のために、ライフステージ各期の女性と家族、乳幼児期から思春期の子どもへの看護、マタニティ期の女性と家族への看護に関する理論と概念を探究・分析する。また、母子と家族を取り巻く身体的・心理社会的健康課題及び母子と家族の QOL に関連する国内外の文献のクリティークを通して、母子・家族への看護における研究課題の明確化と研究方法の検討を行い、母子・家族を育成する新たな看護実践モデルを探究できるよう教授する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /15回) (4 名取初美/3回) 妊娠期から育児期の女性と家族の健康課題とケアについての研究動向を分析し、研究課題を明確化し研究方法を検討する。 (1 阿部美穂子/3回) 障がいのある子どもを持つ家族の問題と QOL 向上の視点から研究動向を分析し、家族の支援における研究課題を明確化して研究方法を検討する。 (7 平田良江/3回) 中高年女性の健康問題とケアについての研究動向を分析し、研究課題を明確化し研究方法を検討する。また育児中の女性と家族への支援への研究課題を抽出する。 (8 宗村弥生/3回) 子供の成長・発達への支援と健康障害のある子どもと家族への支援についての研究動向を分析し、研究課題を明確化して研究方法を検討する。 (9 小林康江/1回) 思春期・成熟期の女性の健康問題とケアの研究動</p>	<p>オムニバス方式 ・共同 (一部)</p>

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	広 域 実 践 看 護 学 分 野 母子育成看護学特講	<p>向を分析する。 (4 名取初美・1 阿部美穂子・7 平田良江・ 8 宗村弥生/2 回) 生涯を通じた母子と家族への健康支援に関する研 究方法を検討し、研究意義を明確化する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部)
演 習 科 目	広域実践看護学特別 演習	<p>広域実践看護学分野における看護実践上の新たな 知識の創出や看護実践モデルを創造していくために、 研究課題の核心をなす学術的「問い」と研究課題への 着想に至る経緯の明確化を行うと共に、研究課題に関 する国内外の文献検討及び課題の検討、課題解決のた めの方法論について探究する。さらに学術的独自性や 創造性、看護学や幅広い看護の対象となる人々に対す る看護実践への波及効果と有用性、研究としての発展 性についても検討を行う。さらに自己の研究課題が看 護実践のどこに位置付けられるかを明確にし、看護実 践モデル案について当該学生の研究指導教員を含め た授業担当教員全員と広域実践看護学分野に属する 他の学生を対象にプレゼンテーションを行い、発展的 な討論を通して高度な創造力・開発能力を涵養でき るよう教授する。</p> <p>当該学生の研究指導教授は、研究課題を明確にする ために課題が抽出された背景・過程を再議するととも に、文献を検討し研究方法を探究する。授業担当教員 は、科学的根拠に基づいた精度の高い研究計画書が作 成できるよう、看護実践への有用性と発展性、研究の オリジナリティー、実現可能性等の観点から学生との 建設的・創造的なディスカッションを行う。</p> <p>(② 遠藤みどり ④ 平尾百合子 ⑦ 井川由貴)</p> <p>広域実践看護学分野に属する学生との討議・文献検 討・フィールドワークを通して、急性・重症患者の早 期回復と QOL 向上を志向した臨床看護実践の研究課 題の方向性を見出せるようにする。さらに看護実践の 課題、科学的根拠に基づいた看護ケアや看護実践モデ ルの開発について検討し、研究課題の方向性を定め る。その後、国内外の研究動向と成果について文献レ</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習 科 目	広 域 実 践 看 護 学 分 野	<p>ビューによる先行研究の知見の総括と評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画の作成に反映できる学修内容とする。</p> <p>(⑥ 木下幸代 ⑤ 米田昭子 ③ 西村明子① 稲垣順子) 広域実践看護学分野に属する学生との討議・文献検討・フィールドワークを通して、慢性疾患患者のセルフケアと QOL 向上を志向した臨床看護実践の研究課題の方向性を見出せるようにする。さらに看護実践の課題、科学的根拠に基づいた看護ケアや看護実践モデルの開発について検討し、研究課題の方向性を定める。その後、国内外の研究動向と成果について文献レビューによる先行研究の知見の総括と評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画の作成に反映できる学修内容とする。</p> <p>(13 佐藤悦子 9 山田光子 16 泉宗美恵 17 小山尚美) 広域実践看護学分野に属する学生との討議・文献検討・フィールドワークを通して、在宅療養者の看護に関連する研究課題の方向性を見出せるようにする。さらに、看護実践の課題や科学的根拠に基づいた地域包括ケアシステムの中での看護実践モデルの開発について検討する。その後、国内外の文献レビューによる先行研究の知見の総括と評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究の位置づけや意義、研究方法の検討を行い研究計画書の作成に反映できる学修内容とする。</p> <p>(14 村松照美 11 小田切陽一) 広域実践看護学分野に属する学生との討議・文献検討・フィールドワークを通して、地域住民の健康課題に基づいた公衆衛生看護に関連する研究課題の方向性を見出せるようにする。さらに、看護実践の課題や科学的根拠に基づいた保健医療福祉等に関する行政施策を踏まえた社会システムの中での看護実践モデルの開発について検討する。その後、国内外の文献レビューによる先行研究の知見の総括と評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究の位置づけや意義、研究方法の検討を行い研究計画書の作成に反映できる学修内容とする。</p>	共同
	広域実践看護学特別 演習		

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演 習 科 目	広 域 実 践 看 護 学 分 野 広域実践看護学特別 演習	<p>(4 名取初美 7 平田良江)</p> <p>広域実践看護学分野に属する学生との討議・文献検討・フィールドワークを通して、妊娠期から育児期の女性と家族への看護に関連した研究課題の方向性を見出せるようにする。さらに看護実践の課題や科学的根拠に基づいた看護ケアや支援プログラムの開発について検討する。その後国内外の研究動向と成果について文献レビューによる先行研究の知見の総括と評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画の作成に反映できる学修内容とする。</p> <p>(1 阿部美穂子 8 宗村弥生)</p> <p>広域実践看護学分野に属する学生との討議・文献検討・フィールドワークを通して、障がいのある子どもとその家族の QOL 向上を志向した看護実践や支援に関連した研究課題の方向性を見出せるようにする。さらに看護実践の課題や科学的根拠に基づいた看護ケアや支援プログラムの開発について検討する。その後国内外の研究動向と成果について文献レビューによる先行研究の知見の総括と評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画の作成に反映できる学修内容とする。</p>	共同
研 究 科 目	看護学特別研究	<p>共通科目及び専門科目、演習科目による学修成果を深化・発展させ、看護学特別研究では専門分野における自らの興味・関心に従い積み上げてきた学修成果から、自己が持つ研究課題を国内外の文献のクリティークやディスカッションから焦点化させ決定し、人々の QOL 向上に寄与できる看護実践の新規的かつ独創的な研究を行うための研究計画書の作成について教授する。さらに、研究倫理に沿って研究の一連の過程を踏みながら、学術雑誌が求める水準に到達した副論文の掲載を経て、学位論文を作成できる能力が得られるよう教授する。これにより、自立した研究活動を推進できる能力を修得し、看護実践の場に還元できる知の産出に必要な研究能力と看護実践者としての研究的態度を探究できるよう教授する。</p> <p>1 阿部美穂子 臨床心理学の視座から、ムーブメント教育・療法、</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	看護学特別研究	<p>及びペアレント・トレーニングの手法を用いて、障害のある子どもの発達臨床とその家族QOL支援にかかる課題研究の指導を行う。</p> <p>① 稲垣順子 活動・睡眠・休息・Relaxation・栄養の生理学的評価及び Evidence-Based-Practice の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>② 遠藤みどり 急性期患者の苦痛緩和や早期回復における看護実践上の課題を取り上げ、臨床看護師への術後疼痛管理教育プログラムの開発や回復支援方法に関する研究指導を行う。</p> <p>4 名取初美 ハイリスク妊産婦の身体的・心理社会的問題に対する看護ケアを研究課題として研究指導を行う。</p> <p>④ 平尾百合子 医療関連施設における細菌学的根拠に基づいた感染制御および感染予防行動に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>7 平田良江 母子と家族の子育て支援に対し、ケアプログラムの構築という観点から研究指導を行う。</p> <p>8 宗村弥生 先天的疾患、特に先天性心疾患の子どもと家族に対する看護の専門性を研究課題として指導を行う。</p> <p>9 山田光子 精神障がい者へのスティグマやセルフスティグマをとりあげ、看護実践やリハビリテーションに関する研究課題への指導を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	看護学特別研究	<p>⑤ 米田昭子 現象学的アプローチ及び、グランデッドセオリーアプローチの手法を用いて、慢性疾患患者への看護介入に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>11 小田切陽一 既存統計等を用いた記述疫学による地域健康課題の要因分析について研究指導を行う。また、集団の健康水準を評価する指標の開発、またそれを地域に適用した健康課題の抽出に関する研究指導を行う。</p> <p>⑥ 木下幸代 インスリン療法中の糖尿病高齢者へのセルフケア支援に関する課題の研究指導や慢性病を生きる人々の生活体験に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>13 佐藤悦子 質的統合法 (KJ 法) の分析手法を用いて、在宅療養者を支援する在宅看護の提供および連携に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>14 村松照美 地域住民の健康課題の明確化のための地域診断や課題解決への公衆衛生看護の介入方法を取り上げて研究指導を行う。</p> <p>17 小山尚美 質的研究の手法を用いて急性期病院に入院する認知症高齢者や医療療養病床に入院する高齢者への看護に関する研究指導を行う。</p>	共同

公立大学法人山梨県立大学 設置認可等に係る組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山梨県立大学				山梨県立大学				
国際政策学部		3年次		国際政策学部		3年次		
総合政策学科	40	5	170	総合政策学科	40	5	170	
国際コミュニケーション学科	40	5	170	国際コミュニケーション学科	40	5	170	
人間福祉学部		3年次		人間福祉学部		3年次		
福祉コミュニティ学科	40	5	170	福祉コミュニティ学科	40	5	170	
人間形成学科	40	5	170	人間形成学科	40	5	170	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	—	400	看護学科	100	—	400	
計	260	20	1,080	計	260	20	1,080	
山梨県立大学大学院				山梨県立大学大学院				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	10	—	20	看護学専攻(M)	10	—	20	
				看護学専攻(D)	3	—	9	課程変更 (認可申請)
	10	—	20		13	—	29	